

命が軽視される原因

日本における中絶の原因の99%は経済的な理由です。しかし、日本は富んでいる国です。洋服の支払いや車の支払はする。しかし命の支払いはできないというのです。命が軽く見られています。ちりあくたのように捨てられています。では、命が軽視される理由を考えて見ましょう。その一つに核戦争があげられます。大量に人が死ぬのを見聞きすることで、人の死に対して驚かなくなってきました。もう一つは、生殖革命です。それは命を操作し、命の品質管理をすることです。お腹の中を調べて、産むか産まないかを問う。産まないと決めたら100%殺すしかありません。また、精子銀行というのをご存知ですか。ノーベル賞を受賞した科学者達の精子が高い値で売られています。夫婦の子であるかないかより、頭のいい子であればいいというような恐ろしい時代になっています。人の価値を、頭がいいからとか才能があるからとか、そういうことで決めてはいけません。性も神様から与えられていますから、女の子が欲しいから女兒を、男の子が欲しいから男児を産むということもできません。それらは神様からのものなので私物化してはいけません。生命操作はあってはならないのです。

赤ちゃんはどのように中絶されていくのか

ある産婦人科医院に勤務していた元看護婦さんの手記をお読みします。

「この医者は徹底した儲け主義で電気料も節約するため八時に消灯、消毒液も節約のため冬でも氷でやる、他は推してしることができず。

赤ちゃんはそうとう成熟していましたので、もちろん母体から出たときは息をしていました。手術台には受け台もなく赤ちゃんはそこからすべり落ちて、へその緒だけにつながってぶらんぶらん回転していました。生きています。

医者は平気です。モノとしか思っています。赤ちゃんが下に引かれる力で、後産がすぐ出ました。頭を下に固い床に墜落です。当然、脳震とうで息絶えることを予期しているのです。普通ならここで注射を打って、せめて苦痛をここで止めると思っていますと、わずかの注射代がもったいないというので自然に死ぬのを待つという経済的な方法を取るらしいのです。

しばらくすると、死んだと思った赤ちゃんが泣き出しました。皆があわて出すと、医者は冷然と口中に手ぬぐいを押し込み、鼻をつまみ、心臓を圧迫して窒息させました。

手ぬぐいを押し込まれた赤ちゃんは手足をピリピリさせて、ちょうど”スルメのように”伸びてしまいました。

赤ちゃんの”死体”は汚物入れの中に放り込まれて、三十分も経ちますと、また動き出して泣きかけたのです。（何という生命力！）医者は困ったやつという顔で、汚物入れの容器一杯に水を浸せと命じました。私はもう見ておられず、横を向いていると、水を飲み込む音や水中から空気を吐き出す音が何とも言えぬ異様な響きでグズグズ、グズグズと聞こえてきます。今度こそ本当に死んだと思っていました。また二十分…ふと気がつくと、赤ちゃんの涙ぐましい生命力で、いつの間にか水面に鼻を出して呼吸を始めました。まだ生きている！医者は洗濯板を出して上に乗せました。水中に押し込んで死なせる訳です。

この運命の赤ちゃんは、不思議にもこのような暴虐な仕打ちを受けながらも息絶えず、それから二十分後、また泣き出したのです。

医者は言いました。

”これじゃ近所迷惑だ。第一、病院内のオレ達が睡眠不足になる。よし、始末する。機械を出してくれ。”機械とは4ヶ月以内の胎児をグチャグチャにつぶす目的のものです。私は、やっとここまで我慢しましたが、もう耐えきれず、機械を渡すと後ろも見ず、隣室に逃げ込みました。

声はすぐ止まりました。しかしその後のガチャガチャという機械の音の長いこと、それは長く続きました。三十分も四十分も続きました。殺人鬼と罪のない幼児との魂の闘争は一時間も続いたかもしれません。幼い身体を刻まれて、この悲惨な劇は終了したのです。『闇に哭(な)く胎児たち』—人工妊娠中絶—（天目昭一著 泉分社）

命は神様が造られたものです。命は神様のものであり、神様の形をとっており、神様の栄光を表すものです。その命が受け継がれて、最後にイエス様が再臨されてこの世を救ってくださるという過程の中に私たちは生きているのですから、私たちは本当に命の大切さを覚えていないと、宣教にも意味がなくなり、生かされている意味もなくなってしまいます。

この過程の中で、中絶がはびこり、命が操作できるということは、自分が神のようになろうとしているわけですから、これは21世紀のバベルの塔を築いているようなものです。私はこれに対して神様の裁きがいつか必ず下ると思っています。

「命の軽視」と「性の乱れ」の関連性

命が軽視されていくと、性が乱れていきます。現在、性が乱れている背後には、命の軽視があります。性は命と関係がありますから、命について考える時、性についても問い直していかなければなりません。私は命を扱う働きに携わっていますからいろいろな人に接する機会が多くあります。例えば政治家や教育者、法律関係の人とかです。彼らはクリスチャンではありませんが（私がクリスチャンであることは知っています）この世の方法に行き詰っているのを実感しており、私に「聖書にしか解決がありませんよね。」と言うのです。法律書でも医学書でも、政治の本でも頻繁に書き直されています。しかし、聖書だけは書かれた時から、何千年もずっとそのままです。書き換えても書き加えてもならない。ですから、聖書を信じていない人でも、聖書が大切だと思い始めていますから、この分野でも聖書を用いていきましょう。

性中毒の日本社会

どのようにして性が乱れていったのでしょうか。性の自由を皆が言い始めて、間違った自由の方に向かって行きました。「フリーセックス」をあおるために性産業があります。性産業は、一年間に2~4兆円の収益を上げています。刺激的な性描写、ポルノやアダルト雑誌、ラジオ、テレビ。これらを公の場にさらしているのは日本だけだそうです。日本は今や、性中毒の時代になっています。

サタンの狙い

神様によって与えられた本能、食欲、性欲、睡眠欲の三つはとても大切ですが、サタンはそれを狙います。アダムとエバが始めに誘惑されたのは食欲です。私の幼少期は貧しくいつもお腹をすかしていましたが、今は違いますね。特に北半球の多くの地域では食欲が満たされているので、サタンは性欲を狙っています。そして私達はその中にいます。特に、十代の性行動が急速に、急激に、完全に変化しています。ある産婦人科医の夫妻が沖縄から北海道まで十代の性行動を調べ、「セックスネット」という言葉を作りました。以前は援助交際というのがありましたが、今は「セックスネット」です。その意味は、一組の付き合っている男女がいたとして、男性も女性も一週間に複数の異性と関係を持っている状態のことです。そのようなカップルが十代で13%いると言われています。ですから、学校ではコンドームを使わないと、妊娠、性病にかかる可能性があるかと教えます。「コンドームを使えば良い。それなら安全だ」という「セーフティーセックス」は決して安全ではありません。コンドームは妊娠を100%防げるわけではありません。性感染症、エイズが防げる、という点については85%で、あとの15%は確実にエイズになっていくというデータがあります。